

来た方に直観的にいいなと 思ってもらえる牧場にしたい

たしま
田島牧場 牧場長 **田島 あゆみ**さん

酪農家



安芸高田市で、夢を抱いて様々な活動に取り組む挑戦者たち。彼らを突き動かす原動力とその熱い想いに迫ります。

楽しみ

「1日の終わりに飲むアルコール、特にビールが最高!」と田島さん。お気に入りの「アテ」はチーズ。

お気に入りの場所

県外から知人が来た時には必ず訪れるという神楽門前湯治村。神楽や里山料理が好評なのだそう。

趣味

大の旅行好き。創業前には、4か月かけて世界一周しました。国内で訪れていないのは青森県のみ。

ここでファームステイもしてみたい!

日本の酪農の将来を見据えて、現場から変えることを選択

高宮町に2019年4月に創業したばかりの牧場があります。切り盛りするのは、広島市出身の田島あゆみさん。広島市内の高校を卒業後、福岡の大学に進学し農林水産省に入省した元官僚という異色なキャリアの持ち主です。転機は、官僚になって7年目に牛乳・乳製品課に配属されたこと。勉強のため、ファームステイで訪れた北海道の牧場で人生を変える出会いがありました。「家族経営の牧場でしたが、牧場長のご両親が高齢で引退。お嫁さんが運営に参加したところ、管内で一番の牧場になったと評判でした。設備を新しくしたわけでも機械を買い足したわけでもない。牧場の良し悪しは人によっても変わるんだと実感しました」と田島さん。その牧場では牛にできるだけストレスをかけず、リラクセスさせるように注力。牛たちの表情がみるみる変わっていったといいます。「補助金などでお金をかけるだけでは本当の意味で現場の力になれないと感じました。「現場でやるべきことがある」と感じた田島さんは酪農家になるために帰郷。世羅町の牧場でスタッフとして経験を積みながら、離農して施設を譲ってもいいという方を探しました。昨年5月に現在の牧場が見つかり、今に至ります。「牛は手をかければかけるほど表情が柔らかくなり牛乳をたくさん出してくれる。やりがいがあるし面白いと感じています」と満足そうな笑顔を浮かべました。

買うとき

捨てるとき

使うとき

不要な包装や袋は断る
買い物をするときはエコバッグなどを持参して無駄な袋が出ないようにしましょう。

環境にやさしい商品を選ぶ



エコマーク
環境への負荷が
少ない商品



グリーンマーク
古紙を原料に
再生利用した製品

捨てるとき

**地域の資源回収に
ゴミを出す**

地域では様々な団体が資源回収に取り組んでいます。近くの回収ステーションなどを利用してリサイクルに取り組みましょう。

最後まで大事に使う

モノは大事に使い、壊れてもすぐに捨てずに修理できるものは直して長く使いましょう。

**捨てる前に
再確認**

何かに使えないか、誰か使ってくれる人がいないか、捨てない方法を考えてみましょう。

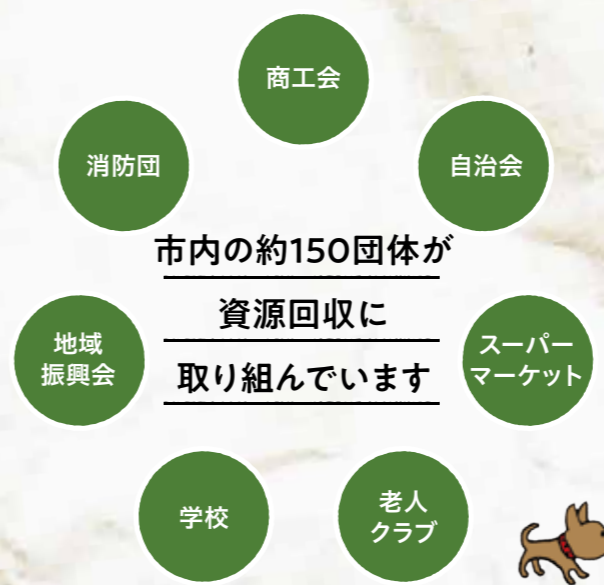


未来のために、
いま選ぼう。

ゴミの削減

私たちにできること

近年、地球温暖化や海洋プラスチックなど、ゴミが原因のひとつとされる環境破壊が問題になっています。昨年の豪雨災害も地球温暖化が原因と考えられており、身近なところにもその影響は及んでいます。未来の子どもたちのために私たち一人ひとりができること、まずはゴミを減らすことから取り組んでみませんか?



八千代小学校で 資源回収が行われました



八千代小学校PTAは、年に1回小学校校庭を利用して資源回収を行っています。直接持ち込めない方のために近くまで回収に回り、多くの古紙を回収。毎年の恒例行事として地域に定着しています。



資源回収などのお問い合わせは
環境生活課 環境生活係 ☎お太助フォン 42-1126